

1. 単元名 「わたしたちの住む三碓のたからものはなんだろう。～見つけよう！三碓遺産～」

2. 単元目標

- ・世界遺産学習を踏まえ、自分たちの住む地域の中から、後世に伝えていきたい「たからもの」について、その魅力や理由をスライドにまとめることができる

(知識・技能)

- ・残していきたい・伝えていきたいものを明確にし、自分の思う「たからもの」である部分を考え、文章や発表を通して、伝えることができる。

(思考・判断・表現)

- ・自分たちが三碓という地域に住んでいる一員であることを自覚し、守っていくべき宝物を考え、それを守っていくために自分のできることを考えることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、奈良市の5年生で継続して行われている「世界遺産学習」をベースに、自分たちの地域にある語り継いでいきたいもの「三碓遺産」を見つけることを目的として取り組んでいく。

世界遺産学習は、世界遺産を学ぶことを通して、自他の地域の魅力や課題にせまり、持続可能な社会の担い手を育てることが目的である。

今回は、世界遺産の成り立ちや意味、それに携わる人々の思いを知る中で、自分たちの住む三碓に目を向け守り伝えていきたいものを探し、「三碓遺産」として取り上げる。3年生で学習する三碓神社（添御縣坐神社）、4年生で学習する富雄川。地域のお祭りを主催したり三碓神社のお祭りのお手伝いをしたりしている青年団の方々。通学路にある阪奈道路を横断するためのなかよし橋など、モノだけでなく、人や風景にも目を向け、多種多様な「三碓遺産」を見つけられるようにしていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、積極的に友達と関わりあったりする児童が多く、特に友達が困っていたりすると、その児童のために率先して動く様子が見られる。一方、コロナウィルスの影響により、これまでの学校行事で高学年としての姿を見ることができなかったことに伴い、主体的に取り組もうという姿勢が乏しいように感じる。教師からの指示を待つことが多く、常に合っているかどうかの確認をするなど、自分たちで考え自信をもって取り組むことがなかなかできないのが現状である。

学習の初めに世界遺産とは何かを訪ねると、日本にある世界遺産を答えることができる児童も少なく、言葉なら知っているという程度で、観光地にあるものというイメージを持っている児童も多かった。しかし学習を進める中で、世界遺産の意味やなぜ世界遺産に認定されたのかを知ることで、より詳しく世界遺産について興味を持ち、自ら調べようとする児童も増えてきた。

地域のことに目を向けると、コロナにより開催されてこなかったお祭りや行事が徐々に開催され始めている。地域の行事やお祭りに参加しお手伝いをしている児童もいれば、ほとんど参加をしていない児童もいる。学校でも地域の行事やお祭りのチラシなどは配布するが、児童によって反応も様々であり、特に児童の話題になることも少ない。自分たちの住む地域に誇りと愛着を持ち、主体的に地域や社会を他者と協

力してよくしていこうという気持ちを育みたい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、下記の項目を中心に指導していきたい。

一つ目は、世界遺産をより児童にとって身近なものとして捉えられるようにすることである。奈良市には古都奈良の文化財という世界遺産がある。だが、1年生の遠足で行った以来訪れていない児童も多く、世界遺産の価値や意味などはほとんど知らず、場所は近いものの児童にとっては身近なものではないと言える。そのために、事前学習を丁寧に行っていきたい。世界遺産ができたきっかけ・登録基準・登録されている物件やその理由などを中心に学習していく。さらに児童の理解を促進するために、映像資料や奈良市で配布されている『奈良大好き世界遺産学習』・守ろう 地球のたからもの（豊かな世界遺産編）」の中から児童の疑問点により近いものをピックアップし学習していきたい。さらに今回現地学習で訪れる東大寺・春日大社については、調べ学習をしていく中で、どんな部分が「たからもの」になっているのかを事前にクラスで話し合い、疑問を持たせうえで、現地学習に参加させたい。

世界遺産現地学習会では毎年、奈良観光ボランティアガイド朱雀の会の方々に、班ごとについていただき、ガイドをしていただくことになっている。事前学習をしているものの、まだまだ知識の浅い児童にとって、世界遺産の持つ意味や成り立ちを詳しく知ることができ、より身近に感じることができると考える。

二つ目は、児童が自分の言葉で表現する時間を設定することである。インターネットや本で調べたことをそのまま写すのでは、児童が自分事として捉え、表現することは難しいと考える。より自分事として捉えるために記してあることをしっかりと理解することが必要である。そのために調べたことを自分の言葉として表現するために意味調べをしたり、調べたことを共有し、友達と一緒に分かりやすい文章に直したりする活動を多く取り入れていきたい。

三つ目は、三確遺産の登録基準をクラスで話し合い、決定していく時間を設定することである。現地学習で見つけてきた「たからもの」だと思える部分を出し合い、児童目線の「たからもの」を共有していきたい。その後、自分たちの地域にはどんな「たからもの」があるのか、どんなものが「たからもの」として当てはまるのかを学級で話し合い、自分たちの基準とする三確遺産を決めることで、より自分事として捉えられると考える。

四つ目は、自分たちが見つけた三確遺産を発信する場を設定することである。遺産を見つけるだけでなく、それを守り伝えていくために相手意識を持って、調べたことを発信する。そして、持続可能な社会の担い手として、自分の住む地域にある「たからもの」を大切にすることを育んでいきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性…地域にはさまざまな良さや魅力があることを知ること。

相互性…世界遺産を守り伝えていくためにいろいろな人の思いや努力があることを知ること。

責任性…世界遺産や三確の地域に残されてきたものを未来にきちんと引き継いでいくことが自分たちの責任であること。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

…世界遺産をより深くとらえ、その意味や残されてきた理由を理解できるようにする。引用した言葉を使うだけでなく、意味を理解し自分の言葉で表現することで、さまざまな立場から自分の意見を述べられるようになる。

つながりを尊重する態度

…世界遺産・「三確遺産」を守り伝えてきた人たちの努力や思いを感じ、自分たちも次世代に引き継いで

千葉やいく役割があることを実感し、そのためにできることを考える。

進んで参加する態度

…自分の地域に関心を持ち、自ら知りたいと感じたことを進んで調べ、地域の魅力を発信しようとする。

・ 本学習で変容を促すE S Dの価値観

世代間の公正…自分たちが住んでいる地域の魅力や良さを知り、それを守り伝えるバトンを自分たちが繋いでいこう。

・ 達成が期待されるSDG s

1 1 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 世界遺産についての基礎知識を理解している。 ② 自分の調べたことをノートやスライドを使って、相手意識をもってまとめている。	① 自分の考える「たからもの」である部分を明確にし、相手意識を持って分かりやすく伝えている。 ② 自分が見つけた「三碓遺産」について、その魅力や守り伝えていくために出来ることを考え、分かりやすく伝えている。	① 世界遺産に興味をもって意欲的に学習しようとしている。 ② 世界遺産・「三碓遺産」を守っていくべき担い手として自分のできることを考えている。

5. 単元の指導計画（全23時間）

次	主な学習活動	学習の支援	評価・備考
1	○世界遺産を基礎から知る。 ① みなさんの考える「たからもの」とはどんなものがありますか。 <u>人類共通のかけがえのないたからもの</u> ⇒世界遺産 ② 日本と世界の世界遺産の数を確かめる。 ③ 世界遺産の種類を知る。 （文化遺産・自然遺産・複合遺産） ④ 世界遺産についてもっと知りたいと思ったことを書き出す。 ・初めて世界遺産が登録された場所が知りたい。 ・世界遺産の始まりは？ ・どうやって世界遺産を決めているのか。 ・どんな部分が評価され、なぜ世界遺産になるのか。 ・世界遺産は、どうしてできたのか知りたい。	・世界遺産について知りたいことを学習の始まりとするために、児童の思うままに書かせる。	ア① （知・技） ウ① （主体的）

2 ・ 3	<p>○世界遺産が登録される基準を知る。</p> <p>① 世界遺産に登録されている物件の動画を視聴し、世界遺産にはどんなものが登録されているのかを知る。</p> <p>② グループごとに分かれて、世界遺産の登録基準を読み、自分たちの言葉で表現する。 (国語辞典・クロームブックを使って意味調べを行う。)</p>	<p>・自分たちの言葉で、他のグループに意味が伝わるように文章を作りかえるようにする。</p>	ア① (知・技)
	<p>○世界遺産が登録された理由を調べる。 奈良県以外の世界遺産について登録された理由を調べる。</p>	<p>・クロームブックを活用し、興味を持った世界遺産の登録理由の文章をそのまま写すのではなく、自分の言葉で書いてくることを強調する。</p>	ア① (知・技) ア② (知・技) イ① (思・判・表)
4 ・ 5	<p>○世界遺産登録クイズ</p> <p>・児童が調べてきた世界遺産とその登録理由をクイズ形式にして、クラス全体で共有する。 クイズの後、どんなものが世界遺産に登録されているのかをまとめていく。</p> <p>○世界遺産ができたきっかけを知る。 世界遺産検定 「世界遺産ってなんだろう」 を視聴する。</p> <p>○振り返りを記入</p> <p>・世界遺産はすごいだけでなく、作られる素材や昔の人の努力などで作られ、人々はその文化遺産や自然遺産を守り続けていかなければならないと思いました。</p> <p>・世界遺産は何も理由がなく作られたのではなく、人々が努力したり、平和を大切にしたりするために作られたことを学びました。</p>	<p>・事前に児童が調べてきたものでクイズを作成する。</p> <p>・今まで持っていた抽象的なイメージ(大きいから・古くからあるから)からより具体的なものにするために、児童が自分の言葉で表現できるように指導する。</p> <p>・学習したことで自分の中でどんな変化があったのかに注目し、振り返りを書かせる。</p>	ア① (知・技) イ① (思・判・表) ウ①② (主体的)
6	<p>○木の文化について知る。 石の建造物と木の建造物の違いについて学習し、世界遺産登録の中で、日本の木の文化が認められてきたこと、登録された法隆寺を守ってきた人の努力を知る。</p>	<p>・以前学習した文化の交流、他の文化を認めることや残していくために努力してきた人々たちについて触れるようにする。</p>	ア① (知・技) ウ① (主体的)
7	<p>○自然遺産の観光地化について考える。</p>		ア①

	ガラパゴス諸島の例から自然遺産の観光地化について学習し、自分たちの身の周りで観光地化している遺産がないか、それを残していくために何ができるかを考える。	・この後、現地学習で訪れる東大寺・春日大社に触れることで、身近にある遺産を意識させられるようにする。	(知・技) ウ① (主体的)
8 ・ 9	○古都奈良の文化財について調べよう。 世界遺産現地学習に向けて、古都奈良の文化財について調べ、スライドにまとめる。 (唐招提寺・興福寺・元興寺・春日山原始林・平城宮跡・薬師寺の6つのグループに分かれる。)	・それぞれの文化財の紹介をするだけでなく、その中から「たからもの」だと思ふところ、「知ってもらいたい」ところ、「残していきたい」ところを明確にしてレジュメ・ノートを作るようにさせる。	ア① (知・技) ア② (知・技) イ① (思・判・表)
10 ・ 11	○古都奈良の文化財について調べよう。 世界遺産現地学習に向けて、古都奈良の文化財について調べ、ノートにまとめる。 (現地学習でも訪れる、春日大社・東大寺について、個人で調べる。)		ア① (知・技) ア② (知・技) イ① (思・判・表)
12	○自分たちの疑問を整理し、ボランティアガイドさんへの質問を考えよう。 調べたことから、自分たちの思う東大寺・春日大社のたからもの(紹介したいもの・知ってほしいこと・残していきたいもの)を共有し、ガイドさんたちに質問したいことを考える。	・現地学習に行く前に、できるだけ学習を自分事として、捉えさせるために、自分たちが思うことを強調する。	イ① (思・判・表) ウ①② (主体的)
13	○世界遺産現地学習会 ボランティアガイド・朱雀の会の方々と一緒に、春日大社・東大寺をめぐる。	※ボランティアガイドの方々に児童に伝えてもらう内容を打ち合わせしておく。 ・ガイドを始めたキッカケ ・古都奈良の文化財を守っていくための活動 ・この活動を通して、伝えたいこと ・「たからもの」だと思ふところ(モノ・人・風景など)	ア① (知・技) ウ① (主体的)
14	○現地学習会で学習したものから自分が「たからもの」だと思ふものを新聞にまとめる。 児童見つけた「たからもの」 ・東大寺(自主的に作られ、今までみんなで大切にしてきたもので、どの時代でも協力して立て直したから。)	・歴史的なものにだけとられるのではなく、自分なりの「たからもの」だと言えるところを明確に表現できるように伝える。	ア② (知・技)

	<p>・昔からの文化(千年以上前から残り、おん祭りなどが残っているのは、昔の人が頑張ってこの文化を残していこうとしたから。)</p> <p>・人々の協力(東大寺が焼けても人々が協力し合って再建したり、正倉院の宝物を守るためにいろんな人が協力しあって今日まで残されてきたから。)</p> <p>・二月堂から見える景色(東大寺も自然もきれいに見えるから。二月堂のスポットだと思うから。)</p>		
15	○現地学習で見つけてきた「たからもの」を共有する。	<p>・モノ、人、風景など多様な選択肢が出るようにできるだけ多くの児童に発表させる。</p> <p>・長期休みに自分が思う三碓にある「たからもの」を探しておくように伝える。</p>	ウ① (主体的)
16	○三碓遺産を見つけるために、「三碓遺産」の登録基準について考える。 世界遺産現地学習会で「たからもの」だと思った視点を、自分たちの地域と照らし合わせて登録基準を明確にできるように話し合う。	歴史的なものだけでなく、三碓にしかない、モノ・人・行事・風景などにも目を向けられるような大きな視点を持たせる。	ウ② (主体的)
17 ・ 18	○児童それぞれが「三碓遺産」だと思うものをスライドにまとめる。 ○まとめたスライドを発表する。	・基準から照らし合わせてどんなどころが「三碓遺産」であるのかを明確にし、スライドにまとめるようにする。	ア② (知・技) イ①② (思・判・表)
19	○発表された三碓遺産候補の中から、「三碓遺産」を決定する。 (三碓遺産認定委員会を開こう！)	・1つ1つ基準と照らし合わせ、認定基準をしっかりと満たされているかを話し合い、決定する。	イ② (思・判・表) ウ①② (主体的)

三碓遺産登録基準

- ① 三碓校区内にあるもの
- ② お世話になっている人
- ③ 三碓のために活動してくれている人
- ④ 歴史、文化がある
- ⑤ 人を引きつける魅力がある(きれいな様子)
- ⑥ 昔から協力して守られているもの

ヒト部門・・・①②③⇒青色パトロールの方

モノ部門・・・①④⑥⇒三碓神社

行事部門・・・①④⑤⑥⇒おみこし巡行

景色部門・・・①⑤⇒桜公園の桜

	○「三碓遺産」に認定された人にインタビューをする。(本校青色パトロール代表 山瀬さん)		
20 ・ 21	○調べてきたものをもとに「三碓遺産」を発信する スライドを作成し、発信する。 (三学期 授業参観)	・学習してきたことから、どうして「三碓遺産」に選ばれるのか児童の言葉で表現できるように相手意識を持って作成させる。	ア② (知・技) イ① (思・判・表) ウ① (主体的)
22	○学習のまとめ これまで学習してきた「世界遺産」や発信した「三碓遺産」を守っていく、伝えていくためにできることは何かを考え、プリントに記入する。	・これまでの学習を振り返り、自分たちが「三碓遺産」を引き継いでいくためにできることについて具体的に記入させる。	イ① (思・判・表) ウ② (主体的)
23	○三碓遺産認定証を作成する。	・登録基準、なぜ認定されたのかをはっきり相手に伝わるように書くことを意識する。	ウ①② (主体的)

○成果と課題

成果

・本実践を通して、児童の様々な変化が見られた。インターネットや本から調べてきたことをそのまま引用して書くのではなく、自分が分かる言葉に代えて書いたり、スライドにまとめたりすることを大切にしてきた。児童が調べてきた自学では、姫路城が世界遺産に登録された理由は木で建てられた建物の中で最も優れているから(美的完成度が我が国の木造建築の最高の位置にあり、世界的にも他に類を見ない優れたものであること)と自分の言葉で簡単に表現したものが多く挙げられた。第4次の振り返りでは、「世界遺産がただすごいということだけでなく、使われる素材や昔の人の努力などで作られていることがよく分かり、それを守り続けていこう」と書いている児童もいて、分かりやすい言葉で表現することでより児童が身近に世界遺産を感じることができた。また三碓遺産を選出するためのスライド作りでも自然と分からない言葉の意味調べをして載せようとする姿も見られた。それぞれの立場から三碓遺産として認定してもらうため、その内容をいかに分かりやすく伝えるかというところに児童が力を注げるようになったと感じた。

・分かりやすく伝えられたからこそ、受け取る側がなかった視点から三碓遺産に触れることができ、より交流が深まった。(児童からは、「そんなものも遺産に入るんや」「同じものを選んだけど、そんな理由もあるんだな」と他の児童が見つけた三碓遺産やその理由について児童それぞれの持つ視点の広がった声が上がった。【多様性】

上記のように理由や登録基準を明確にし、共有してきたことで児童がより積極的に議論をする場が生まれた。三碓遺産認定委員会の際に、5年2組として三碓遺産を作るにあたって「1つの基準だけでなく、2～3つ当てはまらないと認められないのではないか」という意見や一部の人が守っていきたい、お世話になった、などの意見ではなく「クラス全体としてどうなのか、三碓全体としてどうなのか」という意見が挙がり、議論が活発化する要因となった。児童目線で考えること、児童が自ら考えを共有する場が持てたことで、批判的に考える(クリティカルシンキング)ことも今回の単元で身に着けられる視点であったと考える。

・世界遺産に携わる人々の思いを直接語っていただいたことで児童がより自分事として捉え、学習に向かうことができた。事前学習で世界遺産を守り伝えてきた人の思いに触れたことやボランティアガイドさんに東大寺がいろいろな人の思いで作られ、守られてきたことを話していただいたことが挙げられる。現地学習の事後の新聞づくりでは、「東大寺を作り、現代にまで残し続けてきた人々の協力」「おん祭りなど人々の努力によって守られてきた文化」など世界遺産を守り続けてきた人々の思いが「たからもの」であると書く児童もいた。【相互性】

また、三碓遺産として認定された青色パトロールの代表の山瀬さんにも来校していただき、思いを直接聞くことができた。最後の三碓遺産発表のスライドには、その人々の思いを感じ、思いの詰まった三碓遺産を守っていくためにできることとして、「行事に積極的に参加する。」「行事を伝えていく。」「感謝を届ける。」「公園のルールを守り、みんなが大切にしようとする思いを持つ」など継続して取り組む行動を具体的にスライドにまとめることができ、地域にあるものをこれからも残していこうとする意欲を感じることができた。【責任性】

課題

・世界遺産の学習をした後に、地域の三碓遺産を探していく際に地域の中に遺産と呼べるものが少なく、学習を進めるにあたって教材となりえるものが少なかったように感じた。児童が考える三碓遺産として予想されるものの数が少なく、実践を進める上で授業者自身が自信をもって進めることができなかった。三碓遺産として挙げられるものが多様な価値観・考え方から引き出すには、もう少し教材となりえるものを多く見つけていかなければいけない。

(地域のことをもっと深く知らなければならない)

・世界遺産から地域の三碓遺産を見つけることに繋げていく際に、世界遺産への理解度が浅かったり、世界遺産学習への距離を感じる児童がいたり、どちらかという受け身的に今回の授業を進める児童も少なからずいた。より児童が前向きに学習にむかえるように世界遺産と児童をもっと近づけられるように、事前学習の方法を工夫する必要があると感じた。特に第2・3次に行った登録基準を自分たちの分かるような言葉に変える学習では、言葉だけを見ているだけになってしまったので、具体的な登録物件を活用し、なぜ登録されているのかを考えるとより児童に分かりやすく、主体的に学習に向かうための手立てになったのではないかと考える。

現在の学年終了時に目指す姿
自分たちの住む地域に誇りと愛着をもち、一人ひとりによりよい地域を作っていく一員であることを自覚し、多様な人々と協力してよりよい社会のために行動することができる。

総合的な学習の時間「世界遺産学習①」

全世界共通の「たからもの」⇒世界遺産

「世界遺産っていったい何でしょう？」

児童からの問い

- ・世界遺産はどうして生まれたの？
- ・どうやって世界遺産って決めているの？
- ・どんな部分が評価されて世界遺産になるの？

世界遺産の意味や成り立ち、登録基準について学習する。

問い

登録されている世界遺産は一体どんな理由で登録されているのでしょうか？

世界遺産を維持していくために、たくさん
の努力や人の思いがあるんだ。

総合的な学習の時間「世界遺産学習②」

「世界遺産を守り伝えてきた人の努力や思いを知る。」

文化を認め残していくための努力や思い⇒木の文化を知る。

世界遺産を守っていく人々の努力や思い⇒自然遺産の観光地化

問い

自分たちの身近にある思いや文化が詰まった世界遺産を守っていくために、何が必要でしょうか？

総合的な学習の時間「現地学習 事前学習」

古都奈良の文化財について知る

興福寺・唐招提寺・春日山原姉妹林・元興寺・平城宮跡・薬師寺
⇒それぞれグループで登録された理由や魅力などを調べる。

東大寺・春日大社（現地学習に訪れるもの）

⇒現地学習に行った際にボランティアガイドさんへの質問を考
える。

児童からの疑問

- ・ガイドを始めたきっかけ
- ・古都奈良の文化財を守っていくための活動
- ・ガイドさんが考える古都奈良の文化財にある「たからもの」

奈良県に住んでいるからこそ、責任がある。自分にもできることがあるかも！

総合的な学習の時間「わたしたちの住む三蔵のたからものはなんだろう。～見つけよう！三蔵遺産～」

○主に養いたいESDの資質・能力

多面的多角的に考える力（システム・シンキング）
世界遺産をより深くとらえ、その意味で残されてきた理由を理解できるよ
うにする。引用した言葉を使うのではなく、意味を理解し自分の言葉で表現
することで、さまざまな立場から自分の意見を述べられるようになる。

つながり尊重する態度

世界遺産・三蔵遺産を守り伝えてきた日田たちの努力や思いを感じ、自分た
ちも次世代に引き継いでいく役割があることを実感し、そのためにできる
ことを考える。

進んで参加する態度

自分の地域に関心を持ち、自ら知りたいと感じたことを進んで調べ、地域の
魅力を発信しようとする。

○主に育てたいESDの価値観

世代間の公正
自分たちが住んでいる地域の魅力や良さを知り、それを守り伝えるパト
ルを自分たちが繋いでいこう。

総合的な学習の時間「世界遺産現地学習」

自分たちが考えるたからものを見つげに行こう

○奈良観光ボランティアガイド朱雀の会、奈良国立博物館 仏像館ガイドの活用
・ボランティアガイドとフィールドワークを通して、世界遺産の魅力や歴史、そ
れを守り続けてきた人々の努力や思いについて考える。

事後学習

- 1 現地学習で見つけてきた「たからもの」を新聞にまとめる
- 2 見つけてきた「たからもの」を共有し、種類分け。

⇒人・モノ・行事・風景

問い

自分たちの住む地域の「たからもの」「三蔵遺産」を見つけよう！

自分の考えを誰か手に分かりやすく伝えていくために・・・

国語科「伝わる表現を選ぼう」
総合的な学習の時間で学んだことをもとに、スライドや手紙を作成す
る。

- ・読み手、聞き手の立場になって調べた文章や言葉そのまま入れる
のではなく、自分の言葉で表現する力。

国語科「どちらを選びますか」

総合的な学習で行う話し合いのために、自分の立場を明確にして、説
得力のある説明を考え、討論をする。

- ・相手の意見や聞き、良さを分けられるようにする力。
- ・自分の意見と相手の意見を照らし合わせ、集団で納得できる解決策
を考えていく力。

他の人の考えをよく聞いて、みんなで考えていこう。

学活「聴く力の大切さ・学び合い」

- ・さまざまな場面で自分の分らないことを友だちに伝えられる力。
- ・分からない児童に対して寄り添って、一緒に考えられる力。

重宝の中にも人々の思いがあり、守り伝えられてきた理由があるんだね。

道徳「曲げわっぱから伝わるもの」(光村國書)

受け継がれてきた伝統文化について考えよう

問い

伝統文化を守っていきたくするために必要なことは、どんなことでしょう。

総合的な学習の時間（講話・交流）

「地域のために活動している人に話を聞いたり、自分たちが調べたこと
を発信し交流したりする。」

(調べ学習をしている際に児童からの疑問を解決したり、学習の成果を
発信したりする場面に招聘する。)

- ・なら観光ボランティアガイド朱雀の会
- ・奈良国立博物館 仏像館ガイド
- ・子ども交通安全 青色パトロール隊の方々
- ・おみこし巡行の運営、手伝いをしている 学園大和町青年団
- ・三蔵神社 宮司さん
- ・地域の見守りボランティアの方々